

「シティズンシップ教育研究」執筆要領（日本語論文）

原稿作成上の注意事項は、次のとおりとする。

1. 本文の前に、タイトル（和・洋）、英文概要（200～300ワード）、英文キーワード（5つ以内）、邦文概要（400～500字）、邦文キーワード（5つ以内）を付す。但し、研究ノートについては、タイトル（和・洋）、邦文キーワード（5つ以内）、本文（邦文、図・表等を含む）、注、参考文献、研究の広場については、タイトル（和・洋）本文（邦文、図・表等を含む）、注、参考文献とする。なお、投稿原稿には執筆者名（所属・勤務先、英文も含む）は入れず、後で挿入するためのスペースを確保しておくこと。
2. 執筆者が複数の場合、執筆代表者を連名者の筆頭に置く。
3. 英文概要（Abstract）は、200～300ワードとする。なお、英文概要は専門家（論文内容についてある程度知識があり、英文校閲の能力があると判断されるネイティブもしくは同等の者）の校閲を経たものとする。
4. 横見出しには、ローマ数字もしくはアラビア数字で番号を付す。但し、「はしがき」（「はじめに」）及び「おわりに」（「むすびに」）はこの限りでない。小見出しには半角のアラビア数字を用いる。
5. 注及び参考文献は、最後尾に一括する。
6. 本文中での参考・引用文献の指示は、注の形式で示すか、もしくは本文中に示す形式とする。本文中に示す方式は、著者名（刊行年次）、著者名（刊行年次、頁数）、あるいは〔著者名 刊行年次:頁数〕の形で示す。なお、注の形式か本文中に示す形式かのいずれかに統一すること。

<例>本文中に示す場合

- ・社会科教育学の水山光春（2008: 164）が、能動的市民性の概念を「つくる民主主義、つくる公共性」と表現するように、
- ・こうした議論中心のシティズンシップ教育は、知識中心で「暗記科目」と見なされてきた社会科系教科の教育実践を大きく変革する潜在力を持っているため、日本でも注目されている〔池野 2003: 46〕。

7. 参考文献は、著者名のアルファベット順とし、番号はつけない。日本語文献は次の記述形式による。単行本の場合には、著者名、発行年（小括弧付）、書名（二重かぎ括弧付）、発行所の順に、また雑誌の場合には、著者名、発表年（小括弧付）、論文表題（かぎ括弧付）、雑誌名（二重かぎ括弧付）、巻号数、論文所在ページの順に記す。外国語文献も邦文の場合と同じであるが、書名はイタリックで記載する。

<例>

- ・バーナード・クリック著，関口正司監訳(2011)『シティズンシップ教育論—政治哲学と市民』法政大学出版局.
 - ・Bernard Crick(2000), *Essays on Citizenship*, Continuum.
 - ・蓮見二郎(2017)「シティズンシップ教育を考える 5つの論点—ケヴィン・I・マシューズ氏との対話」『日英教育研究フォーラム』, 21号, pp. 29-35.
8. 脚注は認めない。
 9. 図及び表は鮮明なものを作成し，本文中に該当スペースを確保した上で，図や表の番号とタイトルのみを記載すること。図及び表は本文中には組み込まず，別ファイルで提出すること。
 10. 図（写真）及び表には，それぞれ通し番号を付し，表の表題は表の上部に，図の表題は図の下部に記す。なお，図（写真）及び表が1つの場合にも，図1または表1と記す。
 11. 和文は，常用漢字，現代仮名遣いを用いる。但し，引用や固有名詞などはその限りでない。
 12. 句読点は，全角のコンマ（,），まる（.）を用いる。
 13. 数字は，熟語・成語に含まれるもの以外は，アラビア数字を用いる。
 14. 略語は，一般的に用いられているものに限る。なお，まぎらわしい略語には初出の時に正式名称を小括弧付で付す。
 15. 外国人名は，通常漢字表記でない人物については片仮名書きとする。
 16. 原稿は，誤りのない日本語で書く。日本語のネイティブでない執筆者は，事前に専門家（論文内容についてある程度知識があり，邦文校閲の能力があると判断されるネイティブもしくは同等の者）の校閲を受けることとする。

〔附則〕

本要領は，2020年12月11日より施行する。